



平成 31 年 4 月 11 日
海事局安全政策課

国際油濁補償基金第 23 回臨時総会等の結果概要 ～監査委員会の議長に日本人として初めて春成氏が任命～

国際油濁補償基金（IOPCF）第 23 回臨時総会が平成 31 年 4 月 1～2 日まで英国ロンドンにて開催され、基金の運営全般を監査する監査委員会の新議長に、日本人として初めて春成誠氏（（一財）運輸総合研究所理事長）が任命されました。

国際油濁補償基金（以下「基金」）とは、タンカーの事故により巨額の油濁損害が発生した場合に、被害者に対して補償を行うために設立された国際機関（本部：ロンドン）であり、タンカーで運ばれた油を受け取る事業者（石油元売り事業者等）が負担する拠出金により運営されています。

日本は、インドに次ぐ 2 番目の拠出国であり、基金による補償が適切に運営等が行われるよう対応してきたところです。

今次会合では、日本から国土交通省、石油海事協会、（一社）日本船主協会、（公財）日本海事センター、学識経験者等が出席し、我が国意見の反映に努めるとともに（詳細は別紙）、基金の適正な運営全般を監査する監査委員会の新議長に、これまでも監査委員として経験が豊富で海事分野に造詣が深い春成誠氏（（一財）運輸総合研究所理事長）が日本人として初めて任命されました。

（主な審議結果については、別紙をご参照下さい）



監査委員会の新議長に任命された春成 誠氏（写真中の画像の右）



<問合せ先>

海事局 安全政策課 高橋・吉原
代表 03-5253-8111（内線 43-266、43-268）
直通 03-5253-8616 FAX 03-5253-1642

国際油濁補償基金第23回臨時総会等の主な審議結果

1. 監査委員会の新議長の任命について

本年1月に基金の運営全般を監査する監査委員会の議長であるライザネック氏（カナダ）が急逝したことに伴い、新議長の任命が行われ、海事分野に幅広い知見と経験を有し、監査委員会の現委員である春成 誠氏（（一財）運輸総合研究所理事長）が日本人として初めて新議長に任命されました。

2. Bow Jubail 号事件について

2018年6月、ロッテルダム港で Bow Jubail 号が棧橋に衝突し、燃料油を流出させたことが新たに報告されました。本船は空船だったものの、前荷の残渣がないことを船主が十分に証明していないとして、一審は基金条約の適用を命じ、船主は控訴しています。我が国は、船主が十分にタンクを洗浄していたにもかかわらず上記判決が出たのであれば、現行商習慣に反するとともに、海運事業に多大な影響を与えると懸念を表明し、事務局に状況を注視するよう求め、今後の会合において、事務局より更なる進捗状況について報告されることとなりました。

3. 外部監査人の任命について

基金の外部監査人の任命について、これまでのパフォーマンス等を評価して、現監査人を公式レビューにより2020年から4年間延長する提案がなされました。我が国からはこの案を了承しつつも、次回10月会合までには外部監査人の任命に関する明確なルールを確立すべきであることを主張し、監査委員会に了承されました。